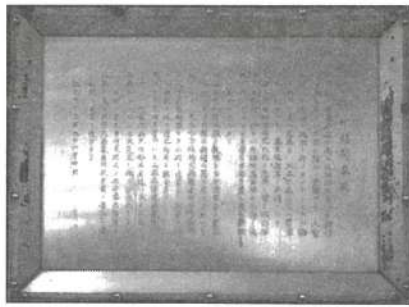




清水稻荷来歴銘板

# 北区史を考える会

Association of Study on History of Kita-City in Tokyo

会 報  
第157号

発行 北区史を考える会

郵便振替 00130-6-47111

報告

## 赤羽文化センターまつり

有馬純雄

10月18日(土)・19日(日)に「第41回赤羽文化センターまつり」が開催され、当会は「二つの罰当り杉伝説」のタイトルで滝野川3丁目、四本木(よもとぎ)稲荷神社所在の「清水稻荷来歴」が刻まれたステンレス製銘板(重量12・7kg、横幅53・5cm、高さ39・5cm、奥行1・5cm)と関連資料を展示した。清水稻荷が四本木稲荷に所在するのは、王子警察署建設工事(昭和28年)に伴い四本木稲荷へ移転された事による。清水稻荷については本紙掲載の5月研究会「つかず離れず」王子の警察署、税務署、図書館」で触れ、「罰当り杉」の由来を記述しているが、それとは異なる意味がこの銘板に刻まれている。本紙面の左上にその写真を掲載。文面は以下。

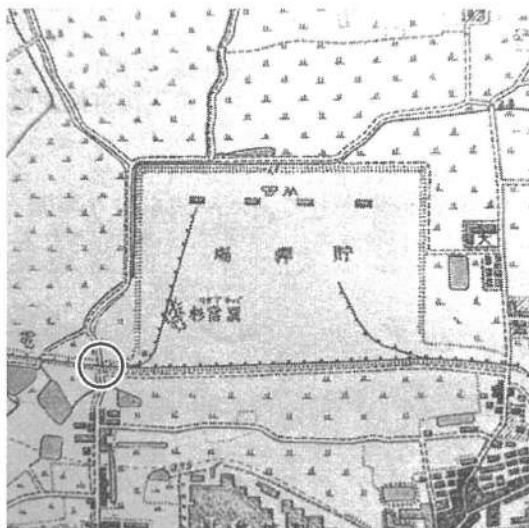
往昔此の稻荷神社に属する田地七百坪を耕作する農夫多くは不幸に陥るの奇跡あり 人皆相伝えて不浄の施肥を行ふためなりとなし恐れて耕さすついに荒廃し三本杉稲荷又は罰当り杉と称せられ幕臣服部某の所領なり 天保年間百姓石井文六此の荒廃を惜しみ服部某に乞ひ祭祀を行ふは勿論附屬田地に不浄の施肥を行はざることを誓ひて之を貰い受け整理して美田となりしなり 明治三十八年工廠の敷地として陸軍省の買上くる所となり自然に社祠は荒れ果て只杉のみ残りしか 大正十年板橋火薬製造所王子構内の

従業員等相謀りて小祠を造営し行者の傳ふる神託に依り清水稻荷と称したり 大正十二年四月当所は火工廠王子火薬製造所となり署長砲兵大佐鈴木貞造は大いに之を改築せんとせしも大震災で沙汰やみとなり 昭和六年所長砲兵少佐安藤六郎再び改築を策し王子火薬製造所従業員の寄付に依り社祠の造営を遂げたり

紀元二千五百九十六年

「罰当り」の要因となった「不浄の施肥」とは、下肥を肥溜めで腐熟せずに田畑に撒く事。腐熟させないと作物の生育に悪影響を及ぼし、また回虫摂取による発病をもたらすとの事である。つまり「罰当り杉」伝説は二つあったのだ。

銘板については、硬質なステンレスに文字を刻む作業は相当難易度が高く、造兵廠王子火薬製造所関係者の意気込みと力量、熱意を感じるものだ。



罰当杉が記入された大正5年地図(王子)  
○が今の王子3丁目交差点

### 目次

|                          |      |    |
|--------------------------|------|----|
| ・赤羽文化センターまつり             | 有馬純雄 | 1  |
| ・「つかず離れず」～王子の警察署、税務署、図書館 | 有馬純雄 | 2  |
| ・福性寺の歴史                  | 田久保海 | 6  |
| ・『十条台』駐屯地ものがたり(五)        |      |    |
| ・十条の前身は後楽園東京ドーム付近にあった    | 八木司郎 | 10 |